

令和 5 年度 第 1 回総合教育会議 会議録

日 時 令和 5 年 8 月 23 日（水）15 時 00 分～16 時 26 分
出席者名 深浦市長、松本教育長、酒見教育委員、山口教育委員、西山教育委員、藤田教育委員

出席を求めた事務局職員

総合政策部長（東嶋）、企画政策課長（岩崎）、教育部長（梶原）、教育副部長兼教育総務課長（川口）、学校教育課長（杉原）、生涯学習課長（伴）、スポーツ課長（金子）、国スポ・全障スポ推進課長（松尾）、市民図書館長（鴻上）、施設営繕課長（吉永）、学校教育課指導主事（緒方）、学校教育課指導主事（前田）、企画政策課副課長兼総合教育推進係長（内山）、企画政策課総合教育推進係副主幹併教育総務課総務企画係長（南里）、学校教育課学校教育係長（田中）

議 題 (1) いじめ・不登校の現状と対策について
(2) 教育DXの推進について

議事録署名者 西山教育委員

傍聴者 3 名

開 会

事務局(企画政策課長) 定刻となりましたので、ただいまから令和 5 年度第 1 回総合教育会議を開会します。

はじめに、深浦市長からご挨拶を申し上げます。

市 長

皆さんこんにちは。本日は第 1 回総合教育会議にご出席いただきましてありがとうございます。早いもので、8 月ももう 23 日です。今朝、中学生が歩いていましたので、学校が始まったのかと聞いたところ、「もう始まっています」と言いまして、伊万里中学校だけはもう新学期が始まっているみたいですね。私たちが子どものころとは違い、学校も 1 週間ほど早く始まるようになったんだなと思いながら、子どもさんが通学される姿を見ていたところでした。

今日は総合教育会議という事で、教育委員の皆さんと市長部局とが一緒に話し合うという事になっています。伊万里市におきましては、私も2期目の時に「STEP UP」ということで、子ども達のサポート、未来を託す子どもたちの応援都市という事で事業を行っておりますし、今年度につきましては伊万里中学校も柔剣道場の改修まで終わればすべて出来上がることとなります。

8月の初めのころに、佐賀県公立学校施設整備期成会の総会が行われました。その中で、佐賀県内の公立の小中学校が241ありますが、耐震化率が99.7%となっていました。なぜ99.7%なのかといいますと、ご存じのとおり東山代小学校が残っているからです。その東山代小については、小学校・コミュニティセンター・留守家庭児童クラブの複合施設となりますが、7月23日に安全祈願祭が行われたという事で、当初は3年計画でしたが、補助金等の関係上、2年間で作るという事となり、現場については大変かとは思いますが、佐賀県の耐震化率を100%にあげるためにも東山代複合施設をぜひ作りあげたいと考えてきたところです。その他にも、学校のトイレの洋式化や、給食センターの改修など、更なる教育環境の整備に努めているところです。やはり、子ども達には環境、それから教育が大事であり、社会で活躍できるような人材として育てて行って欲しいと思っております。

今日の総合教育会議の中では、いじめ・不登校の現状と対策、それから教育DXについて協議をお願いしたいと思います。私の方からの提案もありますので、皆様方と一緒に考えていきたいと思っておりますし、是非、この総合教育会議を通じて、市長部局と教育委員会が一体となって取り組んでいきたいと考えておりますので、限られた時間ではありますが、教育委員の皆さんからの忌憚のないご意見をお願いいたしまして、私からのあいさつとさせていただきます。本日はよろしく申し上げます。

事務局(企画政策課長) 続きまして、松本教育長からご挨拶をお願いします。

教育長

こんにちは。私の方からもひと言ご挨拶を申し上げます。教育委員の皆さまには、先ほどの定例教育委員会にもご出席・ご審議いただきまして、ありがとうございます。また、市長をはじめとする、市長部局の皆さまとの連携につきましても、教育関係の様々な事業につきましても、常日頃より連携を図りながら一体となって推進していただいておりますことに感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症はまだ収まっていないというニュースもございますが、2類から5類に位置づけが移行したこともありまして、学校におきましては運動会、それから秋には修学旅行が続きますし、学校行事は感染対策を講じながら着実に歩みを進めているという所でございます。

7月には地区の中体連が実施されまして、各会場で熱戦が繰り広げられました。県の方でも、伊万里中学校の女子卓球部、国見中学校の野球部が頑張ってくれまして、準優勝という好成績を収めてくれています。

教育現場におきましては、本日の議題にもありますがAIや通信技術の急激な発展をはじめとする変化が激しい環境の中で、学習にデジタルツールを効果的に活用するなどの柔軟かつ適切な対応が求められております。このことに限らず、教育委員会だけでは解決できないような様々な課題がありますが、今回のこの総合教育会議が市長部局と教育委員会の有意義な協議の場となり、本市の教育がますます充実するよう期待しているところでございます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

事務局(企画政策課長) 続きまして、議事録署名者の選任をさせていただきます。西山教育委員にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

西山教育委員 はい。

事務局(企画政策課長) ありがとうございます、よろしくお願いいたします。

それではこのあと議題に入ります。この会議は法に基づき公開としております。しかしながら、法にも規定がございますとおり、個人情報に触れる部分等ではこの限りでないとしておりますので、会議の過程において個人情報に触れる必要がある場合には、傍聴人の方にご退席いただくことがありますのであらかじめご了承くださいと思います。

ここからは、設置要綱第4条第1項に基づき市長が会議の議長になるとされていますので、以降の進行につきましては市長にお願いしたいと思います。深浦市長よろしくお願いいたします。

議長(市長) それでは設置要綱により、私が議事の進行をしたいと思います。では初めに(1)いじめ・不登校の現状と対策について、学校教育課から説明をお願いします。

学校教育課です。まず、(資料 P1 の) ①いじめ認知の現状についてですが、今年度の 4 月から 7 月 31 日までで、小学校 260 件、中学校 139 件、合計 399 件の報告があります。内容としましては、「冷やかしやからかいなど嫌なことを言われる」が 209 件と一番多く、次に多い内容が「軽くぶつかられたり遊ぶふりをして叩かれたり蹴られたりする」が 83 件となっています。その他の具体的な内容としては、「机を揺らされる、給食を受け取ってもらえない、帽子を傷つけられる、バッグに落書きされる」などがあります。また、ここ最近の心配な傾向として、「パソコンや携帯電話等で誹謗中傷や嫌なことをされる」という項目が増えてきており、学校における情報モラルの指導の必要性や、保護者が子どもに買い与えるときのルール of 徹底、保護者の管理の必要性を感じているところです。

次に②いじめ対策についてですが、資料にもありますように、これまで伊万里市としては、平成 18 年にいじめなし都市宣言を出していじめ防止に対する意識を高めたり、平成 25 年に施行された国のいじめ防止対策推進法を受けていじめの防止等に関する条例や基本方針を策定したり、いじめ問題対策委員会を設置していじめ問題の対策を協議したりしてきております。学校におきましては、いじめ対策委員会を設置して定期的にいじめ問題について考えたり、実際に起きたいじめ問題の解消に向けた対策等を協議し、実施したりしています。また、早期発見・早期対応を行っていくために年 2 回の、佐賀県の様式によるいじめアンケートや、各学校独自で考えたアンケート等も実施しております。さらに、保護者の協力も得るために、授業参観で情報モラルの学習を実施したり、講演会を開いたり、市連合 PTA と行動連携をしたりしてきています。その他にも教育相談機関を設置して子ども達から話を聞いたり、道徳の時間に命にかかわる話について考えたり、学級活動の時間に仲間づくりの学習を行ったりしてきております。

続きまして、③市いじめ防止対策緊急スクールカウンセラーの活用状況についてですが、本年度は 7 月 31 日までに 3 件活用しております。内容としましては、自傷行為等の可能性がある児童生徒への今後の対応について職員に助言を行ってもらったり、対象児童生徒と保護者へのカウンセリングを行ったりしていただいております。

次に、④不登校の状況です。今年度は、4 月から 7 月末現在で、小学校は 25 名、中学校は 50 名、合計 75 名の児童生徒が不登校

の状況にあります。不登校の理由としましては、小学生 25 名のうち、21 名が心因性によるもの、4 名が怠惰・非行によるものです。中学生 50 名のうち、47 名が心因性によるもの、3 名が怠惰・非行によるものです。怠惰・非行の項目の中には、家庭の事情や環境によって不登校になっているものも含まれております。

不登校については増加の傾向にあり、不登校対策については市教委より学校への指導助言を行ったり、学校内でスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用し、専門家の意見を聞いたり、教育支援センターせいらや医療機関と連携しながら対応をしているところです。

教育支援センターせいらの、4 月から 7 月末までの通級状況ですが、現在、小学生が 6 名、中学生が 11 名、合計 17 名の児童生徒がせいらに通級してきています。最近の傾向としましては、小学生が増えてきております。なお、17 名のうち 2 名の中学生は、既に学校復帰をしています。今年度は、通級してきた児童生徒が少しでも楽しく過ごせるようにイベントなどを増やししながら実施されており、1 学期中には芋苗さしや韓国大学生との交流、海水浴なども実施されています。以上です。

議長（市長）

ただいま、いじめ・不登校の現状と対策について説明がありましたが、皆様からのご意見等をお伺いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

A 委員

いじめ認知件数が 399 件ということでしたが、解決したものがどのくらいで、指導中のものがどのくらいあるのでしょうか。

学校教育課長

先ほどご報告した今年度の分については把握できておりませんが、昨年度の方で言いますと、小中合わせて 565 件がいじめの認知という事で報告がっており、そのうち 36 件が未解消であります。3 か月間は状況をしっかり見て、十分関係がよくなったところで解消という事にはしていますので、昨年度のうち 36 件については今も指導が続いているという状況です。

議長（市長）

他にありませんか。

B 委員

いじめ認知の現状の中の、パソコンや携帯電話等で誹謗中傷や嫌なことをされるという項目に心配な傾向があるという事でしたが、原因の一つとして、例えば最近子ども達がスマホを持ちだ

したりすることが多くなって、ラインのグループの中での他愛もない会話や既読無視など、本当に些細なことが原因でこういう問題が起きているという事を聞いたりしますが、学校の方が把握できるような体制が、今あるのでしょうか。

学校教育課長

今のご質問について、非常に心配な部分が見られるのも事実ですが、実際にそれを把握できる環境が学校に整っているかと言うと、まだまだ不十分なところが多いと思います。実際にこちらが覚知・認知していくのは、子どもからの訴えであったり、保護者からの訴えであったり、そういう事から発覚し、調べていったらどんどん見えてきたというのが多いですので、把握するという部分については不十分な部分もあると感じているところです。

C委員

今の質問に関連してですが、携帯の保有率など、そういった情報の収集はなされているのでしょうか。

学校教育課長

市全体では調べておりません。

C委員

所持する年齢も低年齢化しており、保護者の方もどこまで管理できているのかという部分が心配です。ここはやはり、学校だけではなく、家庭、保護者さんがしっかり考えていくべきところだと思います。

D委員

資料 P1 の事案の態様「ク」の問題（パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる）というのはこれから増えていくと思います。今日の資料を見た感じでも、伊万里市で 11 件というのは少ないという感覚で、もっとあるんじゃないかと感じています。というくらい、ほとんどの子が携帯を持っているなど、身近なところでも感じる事があります。対策にあげてある、「7 番」の対策（各学校で情報モラルの指導や外部講師を招聘しての講演会の実施）を実際になさっているのですが、来られる方が限られてしまい、本当に来てほしい方、関心を持ってほしい方、これぐらい晒されているという事をお伝えしたい方が、仕事の都合などで来れないことも多く、なかなか浸透しません。先ほどおっしゃったように学校での把握は大変難しく、訴えがあつたりしないと分からないですが、子どもは大人の見えないところで傷ついたり、対応に困っていることがあると思うので、この「7 番」の対策を、保護者、育友会、PTA、教育委員会も含めてもう一步進め

てもらえないかと思えます。何か起きてからの心配よりも、そうなる前に大人が子どもを守るという事を大切にしたいと思えますし、これからの危惧だと思えますので、これは質問ではなくお願いですが、「7 番」の対策を進めていただき、子どもを守っていただきたいと思えます。よろしくをお願いします。

議長（市長）

私からよろしいでしょうか。このあと学校の DX の話もありますし、GIGA スクールの話など、IT 関係の教育の話がありますが、その一方で、リテラシーが遅れているというのは否めない事実だと思えますし、制限しようにも技術的な部分だけではできないことも当然あると思えます。ただ、こういった IT 機器などからは逃れる事は出来ませんので、では、どういう風にしてこれらを使うべきかという事を勉強していく必要があると思えます。この頃はチャット GPT などもあり、子ども達が上手に使うことができているのに対し、親がなかなか付いて行けていないという事もあると思えます。ラインの話もありましたが、子どもによっては小さいときから、小学校に入る前から使っています。学校だけでは難しい部分もあると思えますし、保護者においても、子どもがそういうものを使うことができるという事で、地域なり、大人全体で対応する必要があると思えます。技術はどんどん進んでおり、小さな IT 機器があればそれでいろいろな事ができますので、リテラシーをしっかりしていく時期に来ているんだと思えます。これについてはそう簡単にできるようなものではなく、どこでも同じように苦心していると思えますので、十分に情報を集めながらやるべきことはやりたいと思えます。

議長（市長）

全体的なご意見はまた後でお伺いしたいと思えます。先ほど同じようなご意見がございましたが、次の議題「教育DX」をどうしていくのかという事に繋がっていくと思えますので、次の議題について教育委員会から説明をお願いします。

学校教育課長

先ほど、市長からもタブレット等の話がありましたが、我々も学校訪問をする機会があり、その中で子ども達が授業に向かう姿を見るのですが、ほとんどの教室で学習用タブレットを活用しており、工夫した授業がなされていると感じているところです。授業改善につながっており、いい方向にタブレットが活用されていると感じています。今後も子ども達の学習意欲を高めるために、よりよい学習理解に繋げていくために、学習用タブレット

等を上手に活用して欲しいと思いますし、先ほど市長からもありましたリテラシーの部分も上げながら、しっかり進めていけたらと思います。

教育DXの推進について、資料にありますように大きく3つの柱で話をさせていただきます。まず1つ目は、デジタルドリルの導入等による児童生徒の学びの充実についてです。現在、自主的にデジタルドリルを導入している学校が約半数、20校中約10校あります。費用としてはPTA会費であったり、教材費として集めたものから支払ったりというのが現状です。導入している学校では、クラウドサービスを利用した課題の提出、採点、返却等で学習用タブレットを活用しながら使用しています。デジタルドリルのいいところを探ってみますと、小学校1年生から中学校3年生までの問題が全て入っており、子どもが自分の学びたいところを、例えば振り返っての勉強や、逆に先を勉強するなどの個別最適化、つまり自分に合ったものを選べるという良さがあったり、学校から問題を選んで配信して採点してもらうなど、いろいろな事ができるという良さがあります。今後、市内の小中学校全体にデジタルドリルの導入を考えています。今年度1月からの使用を目指して、現在、必要な事務手続きを進めているところです。他にも、デジタルドリルでは採点や評価業務を自動化できますので、校務に係る業務時間を短縮でき、その分、教員が児童生徒と向き合う時間を確保できるという良さもあります。

次の項目にも繋がっていくのですが、2つ目の校務支援システム導入等による教職員の業務改善の推進について説明します。校務支援システムは現在、公募型プロポーザル方式による提案事業者を募集し、必要な事務手続きを進めています。こちらにも、デジタルドリルと同じように、1月頃から試験的に導入し、来年度から本格的に導入することで考えています。この校務支援システムについては、児童生徒の名簿管理、出欠管理、成績管理、要録作成、保健管理などが統合された統合型システムになっており、これらの機能を活用することで校務のデジタル化ができ、業務効率化や教員間の情報共有を推進できるものと期待しています。

3つ目はプログラミング教育についてです。伊万里市では令和2年度から4年度までの3年間、プログラミング教育推進委員会を設置し、小学校教員8名、中学校教員3名が委員として様々な授業実践に取り組み、プログラミング教育推進ガイドブックというものを作成し、全ての学級に1冊ずつ配布して授業実践の参考にしてもらっています。また、業者に委託してプログラミングワ

ークショップも開催しております。昨年度は新型コロナウイルス対策のために中学校1校、教育支援センターせいらのみでの実施となりましたが、参加した子どもたちは作成したプログラムで実際にロボットが動くところを生で目にすることができ、プログラミングの理解が進む様子が伺えたという事で、今後も同様のワークショップ等を開催していくなど、児童生徒がプログラミングについて一層興味を持ち、自分自身で自由に関わることができるような施策の検討を進めていきたいと考えています。以上です。

議長（市長） ただいま、教育DXについて説明がありましたが、皆様からのご意見等をお伺いしたいと思います。

A委員 やっとなタブレット端末が配置され、ハード面が充実したら次は必ずソフト面になってくると思います。デジタルドリルの導入については検討していくと色々な事が出てくると思いますが、導入に向け取り組んでいただきたいと思えます。デジタルドリルは20校中10校で導入しており、PTAや教材費での導入という事でした。今後全体で導入するという事ですが、どこが母体となるのでしょうか。

学校教育課学校教育係長 今年度、補正予算で計上させていただいていますので、伊万里市で負担するという事で計画しています。

A委員 今後、ソフト面で他にも必要という意見が出たときも、是非、保護者負担ではなく予算化していただければと思います。もう1点、公募型プロポーザル方式というのはどういったものでしょうか。

学校教育課学校教育係長 どういった物が必要という仕様を市から公開し、それに合うような提案を事業者から受け付けます。その提案について選定委員会で選定をし、点数化して事業者を決めるといった契約のやり方です。もう少し細かく決まっているとは思いますが、簡単に説明するところといった流れとなります。

B委員 先ほどのデジタルドリルや校務支援システムについて、既に導入している学校についてはある程度の手ごたえがあるように聞き取れましたが、逆に、デメリットの声が上がっているなどがあれば、お聞きしたいと思います。

学校教育課長

今のところ、デジタルドリルについては、デメリットの声は聞いておりません。

議長（市長）

他にありませんか。（なし）

他にないという事ですので、私の方から教育DXについて、教育という事にこだわらずですが、プログラミング関係について話したいと思います。先ほど学校教育課からもありましたが、プログラミングでロボットなどを使っているとの事でした。今はどうしてもディスプレイ上での勉強が多いですよね。やはり、プログラミングをしてみても実際に動かすという事が必要だろうと思います。ドローンを飛ばす、ロボットを走らせる、競わせるなど、自分で作ったものがどう動くのか、具体的なものを見せる必要があると思います。9月の補正予算で一部、モデル的な形でやってみたいと思っています。プログラミングもそう簡単なものではないので、それを学校の先生たちがやるとなると負担が大きいですし、学校の教育の範囲を若干超える部分も出てくると思います。伊万里市内にはデジタルイノベーション協会もありますので、そういう所の協力を得ながら、例えばプログラミングに非常に興味がある子どもや、やりたいという子ども達には、高いレベルにまで進めてやる事ができないかと思い、私の方から教育委員会へ指示をしていますので、その件について、担当係長より説明をお願いしたいと思います。

学校教育課学校教育係長

市長から話がありましたように、プログラミングにつきましては、その後の成果と言いますか動きというものを、画面上で見るだけではなく、実際に物が動くという結果が見える事で大きな達成感を感じる事が出来ますし、自分のプログラミングがどのようになるのかというところが理解できると思います。そういった教材の使用によってよりプログラミングに興味を持つ子も出てくるでしょうし、興味を持っている子はより深く勉強を進められるという事が考えられますので、私どもの方で事業の選定をさせていただいているところです。プログラミングによって実際のドローンが動く、実際のロボットが動く、そういった教材の導入や、その教材を使ったワークショップについての指導員を派遣する、そういった事業が検討できないかという事で進めさせていただいています。市長の話にもありましたように、授業にはもちろん活用できますが、授業以外の部分でも興味を持った子へのワーク

ショップも検討できるのではないかと考えております。

議長（市長）

私も、プログラミングを机の上やタブレット上でするだけでなく、実際に本当に動くのかどうかを見せる必要があると思いますし、教育といいますとクラス全員が同じレベルでというようになるかも分かりませんが、それ以上に何かをやってみたいとか、クリエイティブな考えを持つ子ども達の能力を生かすという事も必要だと思います。大きくなってそういった仕事をするという事だけでなくでもいいでしょうし、自分たちが作ったものが見える、実際に動くといった教育、それも、先生たちに負担をかけずにという事でいけば、専門的な人もいますので、そういった人を使ってやっていけないかと思います。今年、何台か導入したいと思いますが、うまくいけば、モデル校的にやって、来年度から本格的に導入したいと思っています。先ほどのいじめ問題でもありましたが、それを健全に使う、どう生かせるかという事を、子ども達に体験をしてもらうということを考えています。この件について、ご意見があればお願いします。

C委員

今までプログラミング教室を何回か開かれたと思うのですが、それがステップアップしたような教室ができるということでしょうか。たいだい、何人くらいの応募でそれが開校するのでしょうか。

学校教育課学校教育係長

今年度考えておりますのは、モデル事業という事で、初年度から学校全体にという事ではなく、選択した学校にモデルで置くように考えていますが、実際に今回導入を検討していますものは、先ほど課長からも話がありましたように令和2年度から4年度までのプログラミング教育に係る授業の中で、プログラミングが学校で必修化され、教員用のガイドブックを作成していますので、それに基づいたプログラミング教育をしていく過程の中で、活用することもできます。小学校の高学年くらいであっても、ある特定の簡単なプログラミングでドローンを動かすことができますし、それをより難易度の高い動かし方をしようと思えば、中学校くらいの知識で動かすこともできます。要はその所々のレベルにあわせたプログラムで結果を見ることが出来ます。中には低学年でも得意な子もいるでしょうから、あくまでも検討の段階ですが、学校の中でワークショップをやりますという事でアナウンスをさせていただいて、学年にとらわれずに希望する子に対してワ

ークショップを行い、その中でドローンやロボットを使うということができれば、という事で検討しています。

議長（市長）

他にないですか。（なし）

なかなかこの世界は難しいところもありますが、意外と低学年の子が面白い発想で出来るかもしれません。私としては、伸びたい、勉強したいという子ども達にはそういう教材を、教える方にもそれなりの知識を持った人を、ということでまずは今年度下半期にやってみたいと思っています。その中でびっくりするような考えを持つ子どもが出てくるかもしれませんし、やってみないと分からない部分もあるかと思います。私としてはこれをもう少し広げ、学校ではないですが例えば、いろいろな連絡手段などでドローン等を使えばなと思います。市内にもいくつかあると思いますが、猫型のロボットがレストランなどにあります。そういった物がどうやって動くのかと思ったときに、自分たちでもできるんだとか、自分ならこのようにしてみたいとか、そういう子ども達もいると思います。全員が同じレベルですする必要はないと思いますので、学校で教えられるプログラミングと、それを一歩超えたプログラミングにしたいという子どもたちの力を伸ばすという意味で、やってみたいと思っています。

議長（市長）

では、教育DXの件についてはよろしいでしょうか。全体的なご意見等については最後にお聞きしたいと思います。

それでは次に報告事項という事で、2件ありますので、それぞれ担当課から報告をお願いします。

国スポ・全障スポ推進課長

国スポ・全障スポ推進課から、国民スポーツ大会、全国障害者スポーツ大会の推進について、今年度のプレ大会の現状と、来年度の本大会に向けた進捗状況について説明いたします。お配りしている資料につきましては、「伊万里市の教育」の内容と重複しておりますが、①本市で開催する競技について、②SAGA2024国スポの競技別会期について、③SAGA2024全障スポの大会会期について記載しています。次のページ④には実行委員会のこれまでの開催経過を、⑤については、令和2年度から4年度までの主な準備状況を記載しています。その次に、令和5年度の競技別プレ大会の開催状況と、本大会に向けた進捗状況を記載しております。

令和5年度の競技別プレ大会の開催状況につきましては、5月

に軟式野球競技、7月にビーチバレー競技のプレ大会を開催しています。軟式野球競技につきましては、第45回西日本軟式野球大会をプレ大会と位置付けて本大会と同様に伊万里市、唐津市、武雄市、鹿島市、嬉野市、有田町の6会場で開催され、伊万里市では5月20日（土）と21日（日）の2日間、1日3試合ずつの計6試合が行われています。競技運営の面では、競技団体であります県の軟式野球連盟、市の軟式野球連盟との連携も取れており、比較的スムーズな競技運営ができておりましたが、一方で、競技会場のレイアウトや職員の配置計画を含む、競技会の運営の面では解決すべき点も多く、例えば選手用のバスや乗用車の駐車場を体育館の前に設けていたところ、野球場までの距離がかなりあるという事から、競技用具の運搬が大変だという感想が寄せられました。また当日は日差しが強く、試合後の選手が会場周辺の日陰を探して寝そべっている姿が多く見られたなど、こういった点についても本大会に向け対策を講じていかなければならないと感じたところです。

ビーチバレー競技につきましては、全九州ビーチバレーボールジュニア選手権大会をプレ大会と位置付けて、7月15日（土）、16日（日）の2日間、高校生男子32チーム、女子30チームの計62チームの参加で開催しました。会場となりましたイマリンビーチにつきましては、これまで本市で大きなイベントを開催した経験が無かったことから、特に会場レイアウトや駐車場の過不足などを不安として抱えたプレ大会となりましたが、競技運営の面では、競技団体であります佐賀県ビーチバレーボール連盟、佐賀県バレーボール協会との連携も取れまして、比較的スムーズな競技運営ができておりました。一方、競技会場のレイアウトや駐車場、係員の配置など競技会の運営の面ではやはり改善すべき点も多く、例えばバレーの防球ネットを設置していましたが高さが不足していたという事から、試合球が隣のコートに入って試合が中断するケースが多々見られた事や、その日イマリンビーチでは強風が吹いておりましたが、選手用の椅子やビーチパラソルが試合中に倒れるといったケースも発生した事、それから競技関係者には事前に駐車許可証を配布していましたが、末端までは配布が間に合っていなかったことから駐車場係のチェック作業に支障が生じた事など、本大会に向けた課題が浮き彫りになったということで良い経験になったと思っています。

本年度の今後の計画といたしましては、来月9月10日（日）にオープンウォータースイミング競技のプレ大会をイマリンビ

一斉で開催し、翌 10 月 21 日（土）から 25 日（水）までの 5 日間はホッケー競技のプレ大会を、伊万里ホッケーフィールドと国見台球技場の 2 会場で開催することとしています。

次に来年度の本大会に向けた進捗状況ですが、今回は応援のぼり旗と学校観戦についてご報告します。まず応援のぼり旗については全国から訪れる選手・監督等を歓迎するために、市内小・中学校の児童生徒の手作りにより 47 都道府県を題材とした都道府県応援のぼり旗を作成するものです。対象は市内小・中学校の児童生徒で、作成した旗は来年の本大会の折に競技会場に展示・設置したいと考えています。学校観戦につきましては、子ども達のスポーツへの関心を高め、夢や希望を持つきっかけを作るとともに、コミュニケーションの楽しさやおもてなしの心を育むために競技の観戦を行うものとしており、対象は市内小・中学校の児童生徒と引率者で、本市で開催される国民スポーツ大会 4 競技と全国障害者スポーツ大会の 1 競技を対象として観戦を計画しています。なお、学校観戦の対象学年や観戦種目など具体的な内容につきましては、これから学校側と協議を進めていきたいと考えています。報告事項（1）については以上です。

スポーツ課長

続きましてスポーツ課から、報告事項（2）国見台プールの解体についてご説明します。国見台プールの解体につきましては今年 2 月の総合教育会議におきまして、令和 5 年度の当初予算にプール解体の設計業務の予算を計上していたことからプール解体に至る経緯を説明させていただいたところですが、改めまして簡単に説明します。建設から 50 年を経過し、更衣室やトイレなど施設の老朽化が著しく進行しており、現在は施設としては休止中ではありますが、国見台公園の利用者が誤って怪我や事故等にならないよう、利用者の安全面を第一に考えまして、危険物を除去するという安全安心対策として、プール施設を解体する計画にしております。プール解体の設計業務につきましては、7 月末までの工期により完了しており、今後のスケジュールとしましては、9 月議会において解体のための工事請負費として 8,193 万 9 千円の補正予算を計上させていただき、議会での承認をいただきましたらさっそく 10 月に入札を実施して業者を決定し、来年 3 月末までの解体工事期間を見込んでいます。解体工事については、プール本体の解体に加え、管理棟や更衣室、ポンプ室、トイレの解体を行うこととしており、プール全体の敷地面積としては約 6,150 m²となります。幼児用の小プールと 25 メートルの大プールの間

には約 70 センチの段差がついており、この段差を平坦にするような整備となりますと、開発行為等の届け出も必要となり整備に時間を要する事から、今回は更地にするための必要最低限の整備を行う事としています。施工後図面では駐車スペースを白線で引いていますがこれはイメージ図であり、解体後は敷地には砂利を敷き、トラロープで駐車スペースの区画を行う計画にしています。解体後の跡地の利用計画については現時点では決まっていますが、当面の間は国見台利用者の駐車場として活用したいと考えており、また、令和 6 年度に開催の国スポ・全障スポでは国見台体育施設をメイン会場として競技が開催されますので、大会期間中は選手や観客の駐車場としても活用したいと考えています。解体後のスペースに駐車できる台数については、小プール側に大型バスを駐車する場合は約 30 台、普通車両では約 120 台駐車ができます。大プール側にも普通車両が約 120 台駐車できますので、普通車両だけでは全体で約 240 台駐車できると考えています。説明は以上です。

議長（市長） ただ今それぞれの担当課から説明がありましたが、皆様方からのご意見やご質問があればお願いします。

C 委員 国見台プールの解体後の駐車場については、全部フラットになるのでしょうか。

スポーツ課長 大プール側と小プール側の間には約 70 センチの段差があり、その段差はそのままになりますので、2 段の更地になるといった事になります。

C 委員 バスを止めるスペースと一般車両を止めるスペースをきっちり分けるとい事でしょうか。小プール側には一般車両の駐車はできないのでしょうか。

スポーツ課長 右側（小プール側）については、通常は一般車両を駐車する事を考えており、国スポなどの大会の際は大型バス専用とするように使い分けを考えています。

C 委員 施工後の車の動線は見えますが、人の動線はどうなるのでしょうか。駐車場の左側は崖ですよね。人は芝の所を通るのでしょうか。それとも歩道のようなものができるのでしょうか。

施設営繕課長

人の動線という事ですが、今回はあくまでもプールを解体し、その敷地を駐車場として使うという事で必要最小限での整備をしていますので、人が通る部分としては道路部分を通っていただくか、野球場に降りるときは法面に階段がございますのでそこを通過して他の施設に行ってもらおうという事になります。

B委員

駐車場の件ですが、約70センチの段差ができるという事ですが、誤って落下しないような対策などはあるのでしょうか。

施設営繕課長

今回の敷地の整備と合わせて、車が段差で転落しないようにフェンスで囲って、安全対策を講じます。

議長（市長）

他にありませんか。（なし）

ないようでしたら、私の方から少し話をさせていただきます。解体した後はどうするのかという事を、皆さん気にされると思います。この解体の委託料については今年の当初予算の時に説明しています。まずスポーツ課長からありましたように、国スポの駐車場が足りないという事と合わせ、危険を除去するというこの2点で説明を行っておりましたし、当時、教育部長からも今後についてはこれからという話をしています。私も今すぐ今後をどうするという事を考えているわけではありませんが、考え方を一つ話させていただきます。今年になって、金額は全然桁違いですが、SAGAアリーナができました。同時期に武雄にもスポーツパークができています。伊万里市についても国スポ・全障スポが終わった段階ではスポーツ熱も当然高まってくると思います。そのような中で、今後市民の皆さんとも話し合いをしながらになると思いますが、国見台の全体的な整備をする時に来ているのかなという気もしています。これから市の中でもオーソライズしていきたいと思いますが、私が思っていますのはこれからのスポーツ施設のキーワードとして、「スポーツ」、それから「健康」、そして「憩い」、プラス「防災」。これらをキーワードとして国見台も整備が必要ではないかと思っています。その中では老朽化した体育館の新築もありますが、その他に、今進めていますインクルーシブ遊具、それから健康遊具、そしてネット環境ではWi-Fi環境、もし可能ならグランピングなどもあるのですが、こういったものを兼ね備えたものがないかなと思います。まだ、具体的にどうするのかというのはこれからですが、今回、国スポが終わ

ったらそれで終わりかという、やはりもう1歩進みたいと思いますし、「スポーツ」、「健康」、「憩い」、「防災」、これらをキーワードとして進めたいと思います。ただし、かなりの金額もかかると思いますし、思いつきで出来るのかという、そういう訳にもいきませんので、これから内部的にも十分検討したいと思いますし、市民の皆さんのご意見を伺いながら進めていきたいと思っています。今回、国スポが終わったらそれで終わりではなく、機運を高めたところでのスポーツ関係の施設整備、これをやりたいという事で財政的な面も含め考えていきたいと思っています。ではどうするのかといわれましても今すぐ答えられない部分もありますが、考え方として、こういったものを進めていきたいと思っています。

議長（市長） 今の件についてもですが、報告事項も含め、皆様方から何かございませんでしょうか。（なし）

では次第に沿って、その他の項目となりますが、皆様方から何かございませんでしょうか。（なし）

議長（市長） ないようですので、私の方からもう1点よろしいでしょうか。いろいろな形で企業誘致関係をやっている中で、各企業からは、小さい子ども達に自分たちの工場や、自分たちが行っている事を見て欲しいという声が聞かれます。昨日でしたが、まるきんが佐賀県工業大賞を受賞されました。そこも素晴らしい工場を持っておられます。なかなか伊万里市民の方でもご存じでない方もおられますが、コンピュータで釣り具の一部を作るといったことをされています。それから SUMCO とも定例的に打合せをしています。やはり子どもさんたちに見て欲しいという話があります。ほかに市内の企業を私も見に行ったりしましたが、非常に素晴らしい会社が伊万里には出来ています。そこで是非、小学生や中学生に市内の企業の工場見学をさせられないかと思っています。今年度ですぐ実施というのは難しいかもしれませんが、企業としても人材を募集するにあたっては、伊万里の事を実際に見て欲しいという要望があります。伊万里市にはたくさんのグローバルスタンダードといわれる企業があります。中には、思ってもみないような、東京でしか見られないと思っていたような事を伊万里で実際にやっている、という事もあります。ですので、是非、子ども達による市内の工場見学をやりたいと思っています。私も水道部長だった頃、浄水場や竜門ダムにも行き、子ども達に水がで

きるまでを見てもらったりもしていました。今回、企業の方からこういった話が出ていますので、企業と子ども達をマッチングするといった事をやりたいと思っています。来年度の学校の授業に組み込んでもらうのか、休日に実施するのか、といった部分もあるでしょうが、是非そういった事を検討していただきたいと思っています。教育委員の皆様のご意見を伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

A 委員

職業体験というものを小学校でも中学校でも、高校でもやっています。都会であればいろんな事が体験できますが、田舎となるとなかなか乏しいです。そのため、生徒の夢と言いますか、将来これになりたいというものも小さくなってしまいますし、これを広げる必要があるというのは私も実感しておりました。ですので、伊万里市内でもできるものであれば、いろんな事を体験させてもらえないかと私も強く思います。最近子どもを対象にしたキッズニアなんかというものもやっていますよね。先日孫を連れて行きましたが、ちょっとした事を体験させるだけでも子ども達はとても刺激を受けます。ですので、子ども達の好奇心を刺激するような何かを与えてやるというのは大事な事で、パソコンを使えばいろいろな事を知ることは出来ますが、やはり体験するという事が大事だと思いますので、普段見る事が出来ない、体験することができないようなことを体験できるというのは非常に面白いことだと思いますし、是非進めていただきたいと思っています。

議長（市長）

例えばクリーンセンターなどもそうですが、新しくつくられた企業には見学者コースというものがだいたいあります。最近だとテラサキ伊万里という、配電盤を作っている会社がありますが、6月に新しい施設が出来上がったという事で行って来ました。そこにも見学ルートがあり、物が出来る様子が見れるようになっていました。こうやって見る事が出来るのはとてもいい事ですし、他にもそういった事をされているところもありますが、それを伊万里の人たちが知らない、伊万里の子ども達が知らないというのはとてももったいない事だと思います。企業の方からは手を上げてもらえれば準備しますという回答をしていますので、もちろんバスの手配など経費がかかる部分は市で行うことになりますが、引率となると学校の先生方の手も必要だと思います。こういった事を考えていますが、一番近い年齢の子どもさんがおられるB委員、いかがでしょうか。

B 委員

個人的な話になりますが、私は瓦屋を営んでいます。そういった小規模な事業所など、子ども達が知らない職業もたくさんあると思います。建設関係でも、瓦屋さん、板金屋さん、設備屋さんなど、多業種にわたり沢山の職業があります。こういった工場見学などを通し、伊万里に人が根付いて、人が増えていけばと思います。小規模事業所でもすごく人手不足ですので、そういったところにも興味がわくような取り組みがあればと思います。

議長（市長）

ありがとうございました。市内の企業、伊万里に来られた企業や、また、市外から伊万里に来て仕事をされている方もおられますが、伊万里にはこんなに仕事があるのになかなか分かってもらえないといった話も聞かれます。予算的な面につきましては、市の企業誘致の担当にもさせたいと思いますが、教育委員会の方でも来年のスケジュールの中で組み込んでいただければと思っています。場所の選定も、例えば MR を使って行く、筑肥線を使って行くといった広がりを持たせ、多面的に活用できないかと思っており、市長部局と教育委員会で話し合いをさせていただきたいと思っていますので、来年度に向けてよろしくお願いします。

教育長

非常にありがたいお話であり、私も実体験に勝るものはないと思っています。ただ、学校現場では子どもの移動手段、これが一番のネックであるだろうと思います。また、学校の計画でも、何年生は市内で勉強するといったものがありますが、企業・工場の内容によっては適した学年というものもあります。学校には規模の違いもありますので、例えば5年生を見学させるとなっても、学校によって人数のバラつきがありますので、企業の方とはかなりのやり取りが必要になってくると思います。市長がおっしゃったように、交通手段も含めてしっかり練ったうえで有効な手だてができればと思います。本当にありがたいお話だと思います。

議長（市長）

それでは、この話については、実施する方向で進めたいと思います。いろいろな問題はあると思います。教育長が言われたように、大きな学校、小さな学校もありますし、学年の件もあります。受け入れてくれる企業側の希望もあります。例えば、私が見て面白かったものの中に、東洋水産もあります。機械に小麦から入れていって、最後にはパッケージされたラーメンが出てきます。こういうものは小さい子ども達が見たら喜ぶと思います。逆に、高

度な内容のものもあります。そういう点については、今日は部長もいますので、総合政策部の企業誘致あたりで企業の方と話をし、それを教育委員会と話をしながら進めていき、受け入れ側や子どもたちの考え方もあるでしょうから希望者で行くという形になるかもしれませんが、やり方は別として、まずは来年度に実施してみたいと思っていますので、よろしくお願いします。

議長（市長）

その他、皆様方から全体的にご意見、ご質問等は何かございませんでしょうか。（なし）

ではもう一つ、これは提案ではないのですがお話させていただきます。私が市長になって気になっていたのが、伊万里小学校のトイレです。伊万里中学校や東山代など、いろいろな事業を実施しているのですが、伊万里小学校のトイレの臭いの件がずっと気になっていました。今、図面を配っていますが、来年度に設計をし、再来年にトイレの洋式化を是非やりたいと思っています。若干の予算がかかるとしても実施し、子ども達にいい環境を作ってやりたいと思っています。内容について、施設営繕課長より説明をお願いします。

施設営繕課長

伊万里小学校の下水道接続とトイレの改修について説明します。航空写真を見ていただきますと、プールの下の方に浄化槽がございます。この浄化槽は昔でいう単独浄化槽であり、そこから臭いが発生しているという状況です。今後は、下水道の配管の設計と、体育館と校舎及び職員用のトイレがございますので、トイレの洋式化及びトイレの改修をし、校舎の登校道路を降りたところに下水道の管がございますのでそちらへ接続する設計を、できれば来年度に取り組んで、令和7年度に工事を完了させたいということで考えております。大まかな概算事業費ですが、設計まで含めて約2億1,500万円程度で見込んでいます。以上です。

議長（市長）

今説明がありましたように、トイレ洋式化は全般的に進めていく必要がありますが、やはり、下水道が近くにあるのに繋がっていないという伊万里小学校については問題であると認識していますので、予算を作っても今回やりたいと考えています。ただ、東山代小学校や伊万里中学校の件もありますので、同時にというのはなかなか厳しいところがありますし、特別教室へのエアコンについても今年度設計して来年度設置しますので、その後、1年遅れになりますがやっていきたいと思えます。

議長（市長）

その他に皆様方からご意見、ご質問等はございませんでしょうか。（なし）

よろしいでしょうか。長時間に渡っていろいろなお話をさせていただきましたが、ご意見等がございましたら、この総合教育会議にこだわらず、教育長、教育部長、私、総合政策部長の方に言っていただければと思います。これからも子ども達のために必要な事はやっていきたいと思しますのでよろしくお願い致しまして、本日の第1回総合教育会議を終わりたいと思います。

ありがとうございました。

（16時26分 終了）